

-目次-

CAVALLO

～^{きた}来るものあれば、去るものもあり～

全日への意気込み	2
馬術部新体制	3
馬術部今昔	8
第27回夏季中国四国地区学生馬術大会 結果報告	9

清祀

監督挨拶	12
絵馬奉納式典記録	13
清祀会会員寄稿	21
編集後記	27

～編集者挨拶～

この部誌を手にとられた皆様、お変わりなく日々をお過ごしでしょうか？

今年、めでたく8名の新入生が入部し、現在4年生2名、3年生2名、2年生7名、1年生8名の計19名で毎日活動しています。馬もポニーを含む4頭が入厩し計8頭になり、広大馬術部はたいへん活気づいております。しかし、田中智久コーチが仕事の都合で今年の9月いっぱい広島大学を離れられるということで、寂しさも感じております。

さて、馬術部での今年の大きなイベントのひとつとして、絵馬奉納式が執り行われました。遠方から多くのOB・OGの方々がお越しくださいました。絵馬それ自体の美しさは言うに及ばず、式も大きな盛り上がりを見せて幕を閉じました。

今の厩舎環境とは大きく異なり、たいへん厳しい環境のなかでも馬術部が存続できたのは、地域の方々の支えのおかげだと思いました。そして、その支えを生んだのは、当時の馬術部員の日頃の行いだと思います。改めて地域との強いつながりを感じました。

現在、人間関係の希薄が問題になっていますが、ホースフェスティバル、納涼うままつりなどの体験乗馬イベントを通して、ここ西条の厩舎環境の中でも地域の方々とのつながりを大切にしていきたいです。そして、実際に地域の様々の方にお世話になっておりますので、同時に感謝の気持ちも忘れません。

地域に支えられ、地域を支える広島大学馬術部。新体制になっても、また年々変化していくなかでも長年受け継がれてきたこの土台を大切にしていきます。

OB・OGの皆様、このように馬術部はまだまだ成長していきますので、変わらず応援のほどよろしくお願ひします。

(2年 田原 千聖 HP・広報担当)

全日への意気込み

今年度は4年生2名と馬3頭(清悠、清虎、清麗)が11月に行われる全日本学生馬術大会に出場します。また、4年生2名は全日本選手権への権利を獲得しました。以下、4年生2名の全日への意気込みです。

広島大学馬術部に入部して4回目の夏が終わりました。あっという間のような、長かったような……。全日学への意気込みということで色々振り返ってみました。思い出されるのはうまくいったことばかりではありません。今は記憶に蓋をしておきます。現在に至るまで、本当にたくさんの方々のお世話になってきました。とっっても充実した部活動を現在まで過ごしてこられたのは、指導者及びOB・OGの皆さん、そして現役部員の仲間たちのおかげです。部員でいる時間はあと僅かですが、東京を舞台に全身全霊で挑んでいきますので、どうかひとつよろしくお祈りします。

(文責：4年 櫻江 祐貴)

2年生のときに初めて学典馬場に出場し、まさかの全日への権利を獲得して以来、岡大の高い能力を持つ馬たちに勝つことを目標としてきました。今年の春中四で一応優勝しましたが、たまたま勝ったようなもので納得いかず、誰にもまぐれと言わせない勝利を納めたかったのです。笠置総監督の、夏には勝てるという言葉も半信半疑のまま競技に臨みましたが、お陰様でこの度、みごと完全勝利を納めることができました！ 3回目となった選手権も、かなり気合いが入っております。全日ではさらに良い演技ができるよう頑張りますので、最後まで応援していただければ光栄です。

(文責：4年 竹葉 千恵)



櫻江 & 清悠 (学典馬場)

竹葉 & 清麗 (学典馬場)



櫻江 & 清虎 (学典複合)

新入生紹介

今年度は8名の新入生が入部しました！

これで部員は全員で19名。おかげさまで広島大学馬術部はますます活気づいております。

以下、8名の自己紹介です。馬術部に入部した理由を教えてくださいました。

相田祥吾です。自己紹介します。入部した理由について語りたと思います。四月の入学式、会場へ行くためにバス停に並んでいたとき、はじめて馬を見ました。どの馬だったかははっきりとは覚えていないのですが……。とにかく、その姿がかっこよくて、頭の片隅から離れませんでした。それからしばらく経って、部活探しを始めた時も一番に出てきた候補は馬術部でした。入部した一番の理由は、やはり、馬の姿がかっこよかったからだと思います。大変なことも多い部活ですが、頑張っていきます。ありがとうございました。

(文責：1年 相田 祥吾)

平成二十五年度、馬術部新入部員の秋丸直人です。所属は理学部物理科学科、出身は岡山県です。馬術部に入ったきっかけは、『銀の匙』という農業高校の話を描いた漫画が好きで、その漫画に感化されたからです。少し不純な動機ですがこれからずっと、生涯にわたって続けられるように頑張っていきたいです。入部してからいろいろと大変なことやつらいことが多いですが、それよりも馬術の魅力に大いに惹かれています。夢は岡山県で馬に乗れる高校の先生になることです。人生一九年目にして始まった馬術人生を楽しみたいと思います。

(文責：1年 秋丸 直人)

こんにちは。平成25年度入学生、法学部の佐々木やまとです。出身は広島ですが、地元が県北の安芸太田町というド田舎なので、厩舎まで自転車で約10分の所に下宿しています。さて、はずかしい話ですが、私は馬術というものの存在を全く知りませんでした。「馬と言えば競馬」というイメージしかなく、新入生向けのジャンプショーを見に行ったとき「ジャンプって何を跳ぶの？」と頭に疑問符を浮かべながら見たショーに私は大きな衝撃を受けました。馬が人を乗せて障害を跳ぶのです。そして、自分でも飛んでみたいと思い入部しました。大学4年間がとても充実したものになるような気がしてなりません。

(文責：1年 佐々木 やまと)

この度、馬術部に入部した、津永祐紀です。所属学部は文学部、出身地は徳島県です。大学に入学したら、何か珍しいことをしてみたい、と思っていました。そして、入学式の日馬術部の存在を知り、馬術に興味を持ち、入部しました。しかし、ハードな活動に、入部当初は入部したことを後悔することもありました。特に朝の早起きは苦手で、まだ克服出来ていません。体力と根性を養う良い機会だと思って、卒業するまで続けられるよう頑張ります。

(文責：1年 津永 祐紀)

今年馬術部に入部いたしました、広島大学工学部第四類の藤井啓右です。大学での部活は今しかできないことがやりたい、と思ったのが入部のきっかけでした。出身はすぐその福山市で、新1年生では一番実家が近いかもしれません。おかげで、なにかイベントがあれば親がよく顔を見に来てくれます。体力もないし、特別運動が得意という訳でもありませんが、動物や植物の世話には多少自信があります。これからの部活動、頑張っていきたいと思います。

(文責：1年 藤井 啓右)

馬術部一年、総合科学部の宮川慧です。出身地は北海道です。馬術部に入部した理由は、昔から馬をみることに興味があったので、今度は馬に乗ってみたいと思うようになり、大学に入学したらぜひ入部しようと思っていました。先日の夏中ではスラローム競技にも出場させていただき、試合に出ることの楽しさがわかりました。また、将来的にはこの度の4年生のような素晴らしい成績を残せるように、毎朝の練習を大切にしていきたいと思います。

(文責：1年 宮川 慧)

初めまして！！馬術部一年の本井陽平です。出身地は福岡県です。ですが、馬術部の一部では福岡県は修羅の国だとか、ヤンキーだとか言う話が発生してしまうので控えめにしております。血液型はO型です。よくA型と間違えられますが、そんなに几帳面な人間ではありません。むしろがさつです。そして今はまっていることですが、もちろん馬術です！！それではなぜ私が馬術部に入ったかという、もともと馬が好きだったからということと、先輩達がおもしろくて楽しい人ばかりだったからです。今年の抱負ですが、いち早く先輩達に追いつけるよう精進します。

(文責：1年 本井 陽平)

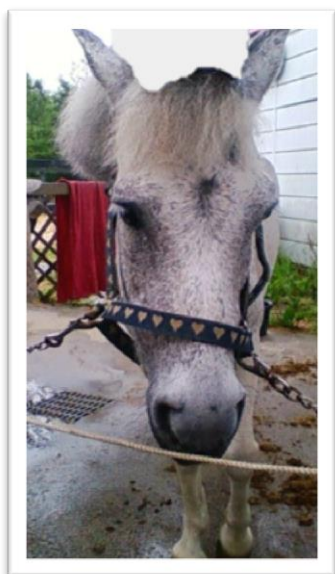
私が馬術部に入ったのは、動物と触れ合える生活を送りたいと思ったからです。また、元々馬術には興味がありました。体験乗馬や5日間レッスンを受けてみて、馬がとても可愛く、馬術を続けてみたいと思ったので、馬術部に入部しました。私は現在、生物生産学部にも所属しています。この学部を受けたのも動物と関わる研究や職業に就きたいと思ったからです。実際に馬術部に入り、やはり生き物と接することは難しいと痛感しますが、沢山の仲間や先輩と一緒に楽しく部活動生活を送らせてもらっています。

(文責：1年 米谷 まり)



新馬紹介

今年度はポニーを含む新馬が4頭、入厩いたしました。ここではその4頭をご紹介します。



名前：勝利	種類：野間馬	生年：平成6年
あだ名：しょーり	性別：セン	毛色：芦毛

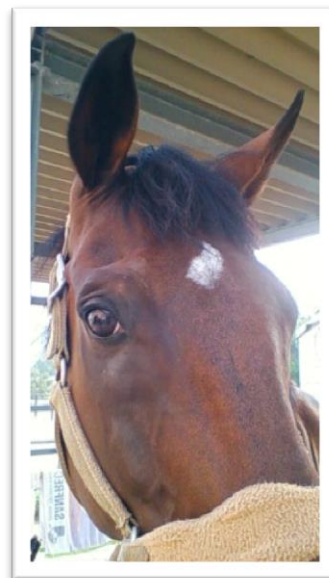
去年の秋に愛媛からやってきたおじいちゃん。来た当初は馬房内をぐるぐるして落ち着かない様子だったけど、今ではもう立派な広大馬術部メンバーです。よく馬房の窓からちょこんと顔を出して、みんなを癒してくれています。基本的には乗ったりしてなくて、かわいい顔を活かしてホースフェスティバルなどで活躍するアイドル的なポジションです。放牧中にほかの馬が追いかけてこを始めても、動じず草をもぐもぐ食べていることも多々あります。そんなマイペースなところがまたいいですね。

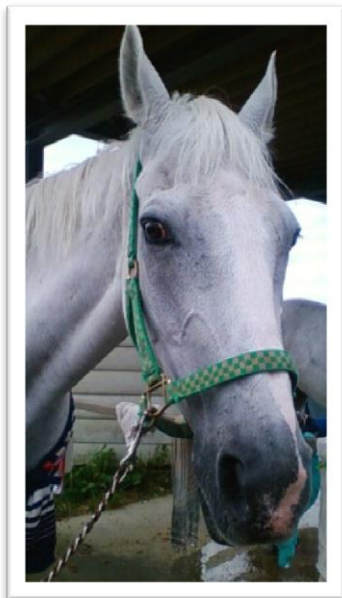
(文責：2年 川西 真奈美)

名前：清熊（きよくま）	種類：仏サラブレッド	生年：平成13年
ニックネーム：ステラ	性別：セン	毛色：鹿毛

京都産業大学から庄原、田部コーチを通じて今年の3月に広大へとやってきました。京産大でのステラポラリスという馬名からステラという愛称で可愛がられています。そのポテッとした体型が熊みたいなので清熊と命名されました。普段はボーっとしていておとなしいですが、近づくと急に機嫌を悪くして怒ります。特に松永君が嫌われています(笑) ニンジンがあれば機嫌がよくなります。いざ乗ってみると元気が良すぎて抑えるのがやっとな頑張り屋さんです。馬場・障害で大事な戦力になってくれるはずです！

(文責：2年 北山 大貴)





名前：テンリカウント	種類：アングロアラブ	生年：平成6年
あだ名：じいじ	性別：セン	毛色：芦毛

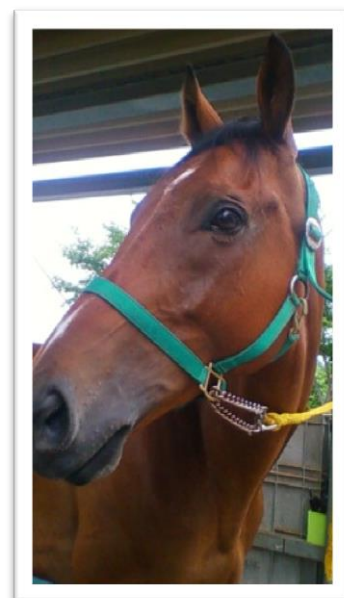
大きくて白い馬です。時々上に向かって伸びをするのでいっそう大きく見えます。チャコさんと勝利君と仲良しで、一緒に放牧すると（特にチャコさんと）寄り添った姿がよく見られます。葦毛同士通じるものでもあるのでしょうか。勝利君と並んでの最高齢ですが、誕生月ではテンリが先。皆から“じいじ”や“じいちゃん”と呼ばれていますが、まだまだ元気です。乗るとぐいぐい前に行きます。練習馬として主に1年生を乗せており、今年の夏中四がデビュー戦でした。今後も若い馬たちに負けずに活躍することを期待しています。

(文責：3年 野地 詩織)

名前：清姜(せいきょう)	種類：サラブレッド	生年：平成20年
あだ名：キナイ	性別：セン	毛色：鹿毛

清姜ことキナイは今広馬術部の所属馬の中で一番若い5歳の馬です。今までにない、若い張りのあるお尻が密かに一部の部員の人気をよんでいます(笑) 彼のお気に入りには曳き手もちゃもちゃ。いつどんな時でも曳き手が緩む一瞬の隙を狙って曳き手をくわえます。そのべとべとになった曳き手を持つこちらの事も少しは考えてほしいです。こんなわんぱくなところもありますが、まだまだ未知数なところもあるキナイ。これからどんな馬に成長してどんな活躍を見せてくれるのか、とても楽しみです。

(文責：2年 黒澤 明莉)



さて、このように新入生の増加、新たな馬の入厩…と新しいことが続いた馬術部ですが、残念なことに、田中智久コーチが仕事の都合で実家のある兵庫へ戻られることとなり、広島大学を去られることとなりました。先日開かれた送別会兼祝勝会は、田中コーチを送り出すために多くの OB・OG の方々が集まってくださり、最後まで大盛り上がりの中お開きとなりました。平成 13 年度から約 13 年間、コーチを務めていただきありがとうございました。また会える日を楽しみにお待ちしております。

ここで、ある部員から田中コーチへのお別れの言葉をひとつ、紹介したいと思います。

田中コーチ

2年 住田 大亮

田中さんの第一印象は怖い人でした。おそらくそれは広大馬術部員共通の認識だと思います。そんなわけで、自分がボストンの主馬匹になったときは戦々恐々としたものです。

今でも自分は田中さんと相対するときは身構えています。しかし、それは恐怖からではなく、何時自分が田中さんの部員弄りの標的になるか分からないからです。

とにかく人をからかうことが大好きな田中さんは、隙を見せたが最後、親の仇かというほど人を弄ってきます。自分が何度その被害にあったことか、その理不尽さについて延々と書き連ねたいところですが、字数の関係上割愛せねばならないのが残念ではありません。

そんな田中さんですが指導に関しては厳しく、自分が不甲斐無いこともあり練習では怒鳴られてばかりの毎日でした。ですがその甲斐もあって、これまで表彰とは無縁だった自分が、今回の夏中四では小 B で 2 位、A3 で 5 位と結果を残すことが出来ました。わずかばかりではありますが、これで少しは田中さんから受けた恩に報いることができたのかなと思います。

本当ならば小 B で 1 位を取り、気持ちよく田中さんを送り出したかったのですが、それは今回叶わぬ夢となってしまいました。ですのでその代わりに、次の夏中四ではもっと上の課目で 1 位を取り、胸を張って田中さんに報告したいと思います。

以上、出会いもあれば別れもある馬術部でしたが、部員 19 名、馬 8 頭の新体制で今後も精一杯活動していきます！

次に、今年執り行われた絵馬奉納式に関連して、かつて馬術部が活動していた場所を訪れた際の記録である馬術部史跡探訪記をご紹介します。

馬術部今昔

2年 大上あすみ

史跡めぐり

絵馬奉納式の朝、私は笠置さんの案内で廣大馬術部所縁の地を訪ねてきました。向かった先は、太田川の河川敷よりも以前に、練習場所に使っていたという淵崎公園です。真上には立派な高速道路が走り、周囲を工場の煙突や住宅が囲む現在の公園には、残念ながら廣大馬術部がかつて活動していた形跡は残っていませんでした。しかし、近くの小学校の琵琶の木の下に厩舎があったこと、厩舎から練習場所までの道のりでよく馬がドブ川に落ちてしまったこと、馬のトレーニングのために黄金山という山を登り降りしたり、川の中へ入ったりしたというエピソードを聞き、この場所にも馬術部の歴史が詰まっているのだと感じました。道中で笠置さんから面白いお話をお聞きすることが出来たので、この場でいくつかご紹介したいと思います。

まずは、乾草合宿のお話です。かつては、草を刈り取り、一年分の乾燥を自分たちで作っていたそうで、部員みんなで乾草作りについて勉強する乾草合宿があったそうです。今では電話一本で綺麗な乾草が飼料庫に届くのですから、随分部員の負担は減っているのだと思いました(お金はかかりますが・・・)。

また、馬運車が無かった当時は、庄原へ馬に乗って三日三晩かけて合宿に行っていたそうです。3頭の馬を2人で連れて帰らなくてはならなくなった時には、笠置さんは1頭に騎乗しつつ、もう1頭を曳き馬で連れて帰ったのだとか・・・！　ここは、さすがは笠置さんというべきでしょう。

そして私が一番印象に残っているお話が、太田川の河川敷に馬場を作る際のエピソードです。当時の部員の方たちは、安全に練習できるように河川敷中の石を1つひとつ拾っていったり、頂いてきた砂をならしたり、柵を作る作業など、自分たちで出来る作業は自分たちですという姿勢をいつも大事にしていたのだそうです。そして、砂や柵の材料の手配、膨大な量の砂をならす作業や柵を作るための重機の使用など、学生だけではどうしようも出来ない時には、頑張る部員の姿を見た馬術部関係者や地域の方が助けてくれたそうです。自分たちの姿勢が周りに認められると、自然と手助けしてくれる人が現れるのだと、笠置さんは仰っていました。他にも、西条馬場建設裏話など、面白い話をたくさん頂きました。

今回、私は運良く笠置さんの馬術部史跡めぐりに同行でき、思い出話や人生の教訓をたくさん聞くことが出来ました。馬術部にまつわるいろんな場所に行ってみることはなかなか難しいかもしれませんが、笠置さんを始めとする素敵な先輩方が馬術部にはいらっしやるので、興味を持った方は是非一度お話を伺ってみてはどうでしょうか。



淵崎公園

絵馬奉納式

8月10日、太田川の近くにある細野神社にて絵馬奉納式が執り行われました。細野神社は車通りの多い道路沿いの、少し登った所にあり、木々に囲まれた緑の豊かな場所です。神社に到着してからは他の部員と合流し、奉納式に来てくださった皆さんをお出迎えしました。西条の馬場建設に深く携わって頂いた原田元学長や、遠くからはるばる来てくださったOB・OGさん方とお会いして、改めてこの場所が50年以上の長きに渡って続いてきた馬術部の歴史において大切な役割を担っていることを感じました。そして、奉納式までの時間を利用して、河川敷の馬場の跡と厩舎跡地を2年生の女子部員で見に行きました。馬場の跡地は、草が鬱蒼としていてかつて練習に使われていた面影はありませんでしたが、何となく四角に近い馬場の形は分かりました。時間の都合で厩舎跡地は見る事が出来ず、非常に残念でした。

神社の方に戻ると、地域の方々も来てくださっていて、境内の中が賑わう中で絵馬奉納式が始まりました。挨拶や祝詞、お清めの儀式と奉納式は厳粛な雰囲気の中で進んでいき、遂に絵馬の除幕となりました。お披露目された絵馬には、元馬術部員の出本さんの描いた躍動感のある美しい絵が中央にあり、太田川の河川敷でかつて広大馬術部が活動していたことを示す言葉や、今回の絵馬制作に協力してくださった皆さんの名前が記されています。OBの景政さんお手製の絵馬を支える留め具は、2013年4月14日の装蹄の際に外した清虎の後肢の蹄鉄で、絵馬を引き立てる素敵なアクセントになっていました。その後は各々写真をとったり歓談したりしつつ、無事に奉納式は終了しました。その日の夜には、OB・OGさんと一緒に御飯をいただき、大盛り上がりの中皆さんとお話することができました。楽しいひと時はあっという間に終わり、時間が過ぎるのがとても早かったです。

無事に絵馬の奉納式は終わりましたが、一番大事なことは、地域で生まれた繋がりを今後も大切に続けていくことだと思います。広大馬術部の史跡めぐりも兼ねて、また絵馬の様子を見に行きたいです。



太田川馬場跡地

第27回 夏季中国四国地区学生馬術大会 成績

2013年8月24日～8月26日の3日間にかけて蒜山ホースパークにて開催された第27回夏季中国四国地区学生馬術大会の全成績です。広島大学は新しくテンリカウントを従えて全7頭で試合に臨みました。部員のエントリー数も増えたせいもあってか、個人のポイント加算が多くなり、結果今年度も総合優勝をはたすことができました。

また、全日本へは、馬場で櫻江&清悠、竹葉&清麗、総合で櫻江&清虎、竹葉&清麗が権利を獲得しました。選手権へは、女子、男子それぞれ同じく竹葉、櫻江が権利を獲得しました。

以下は各競技においての1位～3位、及び広島大学の結果です。()内は試合に出場した頭数です。

第1日目

第1競技 学生賞典馬場馬術競技 (6)

- 1 竹葉 千恵 清麗 広島 57.221%
- 2 古本 拓也 カイテキZ 岡山 53.657%
- 3 櫻江 祐貴 清悠 広島 51.759%

第2競技 学生賞典複合馬術競技 (3)

- 1 竹葉 千恵 清麗 広島 60.2
- 2 櫻江 祐貴 清虎 広島 82.9
- 3 大久保 香里 クー 岡山理科 81.3

第3競技 馬場馬術競技L1課目 (8)

- 1 古本 拓也 ジーオーギャラン 岡山 60.057%
- 2 山崎 樹里 クラリスマロン 山口 58.735%
- 3 秋山 瑞穂 テンシノザール 岡山理科 52.471%

第4競技 馬場馬術競技A4課目 (14)

- 1 近藤 謙二 オラフ 鳥取 61.593%
- 2 吉川 利弥 クラリスマロン 山口 58.477%
- 3 中村 綾花 リバティールI 岡山理科 57.246%
- 5 大上 あすみ 清麗 広島 55.796%
- 6 北山 大貴 清熊 広島 55.579%
- 12 松永 昶堯 清虎 広島 51.883%

第5競技 馬場馬術競技A3課目 (15)

- 1 兼田 稜 クラウディ 島根 52.608%
- 2 入道 陽香 生喰 岡山 52.246%
- 3 橋田 優人 昇雲 愛媛 51.521%
- 5 住田 大亮 清将 広島 50.217%
- 6 川西 真奈美 清悠 広島 49.927%
- 8 野地 詩織 清麗 広島 48.767%
- 11 田原 千聖 清虎 広島 45.289%
- WD 藤井 理子 清熊 広島
- WD 藤井 理子 清悠 広島

第6競技 馬場馬術競技A2課目 (16)

- 1 竹中 千瑛 クラリスマロン 山口 58.627%
- 2 黒澤 明莉 清悠 広島 55.490%
- 3 津島 由佳 ハルシオン 山口 55.392%

第2日目

第7競技 学生賞典障害飛越競技 (2)

- E 近藤 謙二 オラフ 鳥取
- WD 近藤 謙二 ハクト 鳥取

第8競技 小障害飛越競技A (8)

- 1 吉川 利弥 プレシドクラウン 山口 44"70 0
- 2 松永 昶堯 清虎 広島 49"87 0
- 3 大久保 香里 クー 岡山理科 54"26 0
- 6 櫻江 祐貴 清将 広島 47"88 16

第9競技 小障害飛越競技B (5)

- 1 大上 あすみ 清麗 広島 45"65 0
- 2 住田 大亮 清将 広島 46"98 0
- 3 松永 昶堯 清隼 広島 47"74 0

第3日目

第10競技 小障害飛越競技C (13)

- 1 吉川 利弥 クラリスマロン 山口 49"04 0
- 2 山崎 樹里 プレシドクラウン 山口 53"10 0
- 3 北山 大貴 清隼 広島 54"85 0
- 9 大上 あすみ 清虎 広島 65"48 16
- WD 藤井 理子 清熊 広島

第11競技 小障害飛越競技D (9)

- 1 黒澤 明莉 清麗 広島 50"18 0
- 2 山崎 樹里 クラリスマロン 山口 52"21 0
- 3 野口 彩花 チーフシャトー 鳥取 56"00 0
- 4 田原 千聖 清隼 広島 59"07 0
- E 川西 真奈美 清隼 広島

第12競技 小障害飛越競技E (15)

- 1 前田 紗希 オラフ 鳥取 44"41 0
- 2 前岡 沙瑛 チーフシャトー 鳥取 44"62 0
- 3 松尾 あかり 伯凜 松山 51"89 0

第13競技 スラローム競技(30)

- 1 林 亮介 鶴鳴 広島工業 31"33 0
- 2 津永 祐紀 清隼 広島 32"40 0
- 3 藤岡 和寛 鶴千 広島工業 32"71 0
- 8 宮川 慧 テンリカウント 広島 36"94 0
- 11 相田 祥吾 清虎 広島 38"26 0
- 22 藤井 啓右 テンリカウント 広島 44"02 0
- 24 佐々木 やまと テンリカウント 広島 48"37 0

団体成績

- 1位 広島大学
- 2位 山口大学
- 3位 岡山大学

個人成績

- 1位 竹葉 千恵 (広島)
- 2位 櫻江 祐貴 (広島)
- 3位 古本 拓也 (岡山)

馬匹成績

- 1位 清麗 (広島)
- 2位 クラリスマロン (山口)
- 3位 清虎 (広島)

選手権出場者

- 男子 古本 拓也 (岡山)
- 櫻江 祐貴 (広島)
- 女子 竹葉 千恵 (広島)
- 近藤 史 (山口)
- 山崎 樹里 (山口)

ご挨拶

監督 木内 啓司 (H5 年卒部)

清祀会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

今夏は、広大馬術部の絵馬奉納式典、夏季中四国大会、そして田中コーチの送別会兼祝勝会とイベント目白押しでしたが、会員の皆様方にはイベントへの参加はもちろん、心のこもったメッセージをいただくなど、本当に感謝の一言です。

絵馬奉納式典につきましては、後のページでその様子をお伝えしたいと思いますが、かつての活動の地にその足跡を残すだけでなく、OB関係者の皆様、地域の皆様との絆を深める意義あるイベントとなりました。

田中コーチの送別会にも北は北海道、南は佐賀県からご参集いただき、総勢45名の盛会とすることができました。ご多忙の中、遠路お集まりいただいた皆様、本当にありがとうございます。部員、指導者はもちろんですが、会員の皆様のお力添えがあって初めて部は大きく前進することができるということを、あらためて感じさせられた次第です。

その他にも、夏季休暇期間中、馬術部は庄原田部コーチによる集中合宿はもちろん、京都産業大学の水野監督以下、指導者部員の皆様のご協力をいただいていた合宿を体験したり、三木HRPの兼子馬事部長のご指導の下で野外コースの馴致を行わせていただくなど、多くの関係者の皆様の温かいご支援の中で、活動の幅を広げることができました。

今回の「清祀」は、そのような『絆』や部の取組み姿勢をテーマに皆様から集まった原稿を掲載させていただきました。どうぞお楽しみくださいませ。

田中コーチ送別会兼夏季中四国大会祝勝会にて (H25. 9. 22)



絵馬奉納式典記録

OB関係者の皆様の原稿をご紹介する前に、去る8月10日に執り行われました絵馬奉納式典の記録を掲載させていただきます。当日の様子など伝われば幸いです。

◎絵馬奉納の経緯

広島大学体育会馬術部は1967年（昭和42年）11月から1994年（平成6年）5月までの間、佐東町上八木で活動しました。中国電力様のご協力により太田川河川敷を馬場に、地元の皆様のご理解をいただき細野神社の土地に厩舎および清社会館を建て、西条移転までの活動拠点として約27年間をこの地で過ごしました。現在の馬術部があるのも、この地での27年間の活動があってこそで、この度の絵馬奉納事業は、清社会終身顧問の景政さんと会長の笠置さんにより発案され、この地に広島大学馬術部の活動の記録を残そうとするものでした。

絵馬の作成には、描画者である出本沙也佳さん（広島大学教育学部造形芸術コース、元馬術部員）や原田康夫先生（広島大学元学長、広島大学体育会同窓会会長）に額字の記載のご協力をいただき、またOBの皆様方の多大なるご寄付をいただきながら、半年足らずの期間をかけて完成しました。

◎式典当日の様子

当日は、気温が37℃を超える暑い一日でした。大阪府や香川県、徳島県など、遠方よりOBの皆様にご参集いただき、細野神社の総代さんにより式典は滞りなく挙行されました。

序幕された絵馬は、それは立派なものでした。馬術部関係者のみならず、地域の皆様方にも心より喜んでいただき、また当時の話にも花が咲きました。

懐かしき細野神社全景。



除幕の様子です。



奉納された絵馬。堂々たるものでした。



◎絵馬奉納の辞

笠置会長による『絵馬奉納の辞』です。

絵馬奉納の辞

広島大学体育会馬術部は昭和四十二年十一月より平成六年五月までの間この地で活動した

この間地域の皆様より多大なご支援ご協力をいただいたわれわれ未熟な学生が二十七年の永きに亘りこの地で活動できたのは 周囲の皆様方が常に暖かい眼で見てくださり かつ まことに寛大な心で接して下さったからに他ならない

このことを広大馬術部はいつまでも忘れることのないよう心に刻みつつ 地域の皆様に感謝の意を込めて絵馬を奉納するものであり あわせて この地が我々や先輩後輩の汗と涙が染み込んだ馬術部発展の礎の地であることを末永く後世に伝えるためにこの絵馬を奉納する

平成二十五年八月十日

広島大学体育会馬術部 清社会会長 笠置 洋二

◎謝辞

細野神社総代山本實様による『謝辞』です。

謝 辞

私の生涯におきまして、この度の奉納絵馬の出来事ほど感激したことはありません。

景政氏から、昔、地元の皆さんにお世話になったことが忘れられず、何か感謝の意を表したいのだが、との申し出がありました。それはありがたいことですと簡単な返事をしたのですが、まさかこんな立派な、大勢の方の真心こもった供物とは想像もしませんでした。

また、ここが広島大学馬術部発展の礎の地であり、我々も少しはお役に立っていたのだと 改めて気付かされました。

正直申しまして、四十年前のことは失念しておりましたが、振り返ってみますと、当時は減反が勧められる時代で、我が家もソルゴ(飼料)に転作し、馬糞と交換したこと、娘たちが話しますには「子供の日」に馬に乗せてもらい、怖かったけど嬉しかったこと、角帽に長靴の姿が素敵だったこと、女性部員がおられたが、飼い葉集めに汗を流しておられたこと、など思い出を語ってくれました。

本日奉納されましたこの絵馬は、地域の文化財として末永く語り継がれることでしょう。ありがとうございました。

平成二十五年八月十日

細野神社 総代 山本 實



参加者全員で記念撮影です。

細野神社へ絵馬を奉納して

終身顧問 景政 崇彦 (S36 年卒部)

今夏、細野神社へ会員ほか有志一同の出宝により、目出度く立派な絵馬が奉納されたことに衷心よりお慶び申し上げます。そして、笠置会長には何かと企画、製作とご尽力いただきその苦勞に対し感謝し御礼を申し上げます。

更に、神社神職様を始め総代の方々には、立派な奉納式典を挙行下さいまして、末永くご保存下さると祝詞を上げていただき有難うございました。

大学側の方は、元学長原田康夫 現体育会同窓会会長先生の臨席を賜りOB諸氏にはご遠方より、現役学生の方々には猛暑の中を大勢参加下さり、一同で除幕し、拍手でもって全員この祝事で新たな前進を確信しました。

ここに、関係者として皆様方へお礼申します。立派に記念絵馬が奉納されたことに感激し、部の永遠発展を希求し越し方を懐古いたしました。

絵馬を奉納して

会長 笠置 洋二 (S43 年卒部)

さしもの猛暑も季節の移り変わりには勝てないか、ここ数日は秋らしい風が感じられるようになりました。会員の皆様にはお変わりないことと思います。

今年の夏季中四学生競技会も無事終わり、今は全日学の準備に余念がないといったところです。詳細は省きますが、学生賞典馬場に2人馬、学生賞典複合競技に2人馬、選手権競技に2名が出場します。どうぞ応援をお願いします。

さて、ご案内のとおり昨年から今年にかけての事業として、細野神社に絵馬を奉納しました。皆様から多大なご協力をいただきました。景政終身顧問からお話をいただいてから約1年、お蔭様で立派な絵馬を奉納することができました。これで広島大学体育会馬術部が昭和42年から平成6年の27年間、上八木の地で活動したことの証がいつまでも目に見える形で残ることになりました。

奉納式には、原田元学長、現役部員、近隣の清祀会会員、遠くは大阪、四国からの会員も参加しての盛大な式になりました。

地元の皆さんからは大変心のこもった謝辞をいただき、改めて当時のことを思い出し、感慨を深めました。あの頃も楽しかったなあ・・・と。

どうぞ近くにおいでの際は細野神社を訪れ、絵馬をご覧になってください。

式後、西条に移動し懇親会を催しましたが、近隣の会員が仕事を終えてから駆けつけての参加もあり、賑やかで名残のつきないようすでした。なにしろ数十年ぶりに会った者同士もいましたので。

西条から細野神社に移動するとき、2年生部員1名を車に乗せ「馬術部遺跡めぐり」をし、東雲の湊崎公園、東雲分校跡に案内し、馬場・厩舎のあった場所を説明しておきました。だんだん知った者がいなくなりますので。

変わっていますよ。厩舎跡などは行っても明確にはわかりません。裏のトブ川も道路になっているようだし、周辺の地形も変わっています。だいたいの見当をつけるくらいです。お蔭様で“絆”を感じる楽しい一日を過ごさせていただきました。終わりにりましたが、絵馬作成に多大なご協力をいただきました皆様に改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

以上、絵馬奉納式の様子と、景政終身顧問、笠置会長からのご挨拶を掲載いたしました。

続いて、OB関係者の皆様方から、絵馬式典への出席に際し、心のこもったご挨拶やご感想をいただきましたので掲載させていただきます。

絵馬奉納式の日

佐竹 勝利 (S43 年卒部)

畏友笠置の車で太田川橋に向かった。やがて2本の橋が見え、そして竹本商店が見えた。笠置の話によると、竹本のおばちゃんは数年前になくなったが、生前お訪ねした時には涙を流して懐かしがってくれたそうだ。ここで活動していた頃には日曜日の練習帰りに良くこの店によってパンや天ぷらなどを食べて空腹を満たしたものだ。

馬場があった河川敷には草がうっそうと茂っていた。細野神社に着いた後、厩舎の跡地に行ってみた。そこには廃材処理関係の会社があり片付いていたが、土地の形は間違いなく我々が使っていた頃のものであった。

清社会館の設立については、25周年記念誌に詳しい(99~101頁)。そこには、OBが素人設計図を作成し、「書類を佐東町その他へ提出し、建築の申請をする。」とある。なにしろ素人なので、申請に行くたびに修正を求められ、町役場へ何度も往復した記憶がある。それでもなんとか申請できた。そして、昭和46年4月4日落成祝賀パーティーが行われたとの記録がある。ところが、建築完了検査の申請の記録がないし記憶も無い。誰かが手続きをしたのだろうか。万一していなかったとしても、もう時効だ!

細野神社の境内にはちょっとした鉄骨のステージ(?)があった。ある秋の日にそこでどさ回りの芝居があったことを思い出した。練習が終わって暗くなって、境内にだけ灯りがついていたので、おもしろ半分には群衆に加わった。今でも印象に残っているのは、田舎代官か何かの女をくどく際に、「何でも買ってやるぞ」「それなら着物買って」「オーよしよし」「かんざし買って」「オーよしよし」「三越買って!」「オーよしよし!？」というやりとりがあった。観客席がどつと沸いた。(25周年記念誌63~64頁に笠置が少し触れている。)

絵馬奉納に参加して

関 伊津子 (S53 年卒部)

猛暑の八月、細野神社に絵馬を奉納する式典に参加させていただきました。

卒部して35年、広島に行くことはあっても馬術部元厩舎や馬場を訪れることはほとんどなく、4年間お世話になった場所をこの機会に是非訪ねてみたいと思って参加しました。

汗をかきかき細野神社の階段を上がると、木内監督が笑顔で温かく迎えて下さいました。本殿に入ると、懐かしいかつての監督、コーチの笠置さん、新谷さんにお会いして、気分はすっかり学生時代にもどってしまい田部さんにも、「しんちゃん」なんて言ってしまいました。すみません。

いよいよ、壁面に掲げられた絵馬がお披露目されると、その迫力に息を呑みました。そこには、これまでの馬術部員が馬とともに歩んできた歴史がしっかりと刻まれており、絵馬の中の騎手は、まさに未来に向かって飛越しているのだと感ずることができました。

今回、思い切ってこの式典に参加して本当に良かったと思いました。若かった自分が汗を流し、喜び、悩んだ4年間の思い出が、こんなに多くの方々と共有できるものであったということが嬉しく、そして宝物であることに気づかせていただきました。笠置さんに駅まで送っていただく車中で、初対面のOBのみなさんとも仲良くなれて、短時間の広島滞在ではありましたが、最高の夏になりました。本当にありがとうございました。

思い出・絆 今再び

石谷 (旧姓 川口) 博子

このたび、初めて部誌に投稿させていただきます。

大阪への就職で故郷・広島を離れて22年。数年前のある日、ふとしたことから清祀会のHPにたどりつき、懐かしいお顔、お名前などを見つけて狂喜乱舞。最近の記事などを職場のお昼休みに眺めることが楽しみとなっていました。

あの頃触れた馬の温かさ、馬上の気持ち良さ、一緒に汗を流した大切な仲間達…今も心身に生き生きと根付いており、短い期間ではありましたが、廣大馬術部から得た経験は私にとってはなくてはならないものとなっています。清祀会のHPを見つけた時から、いつか、何かの形で少しでも恩返しをしたい、そんな風に思っておりました。

それからしばらく経ったある日のこと。細野神社絵馬奉納支援寄付の記事を見つけました。あの頃通った太田川橋のたもとの河川敷、八木の厩舎、細野神社…当時の活動の証、という形なら、是非とも参加させていただきたい…という気持ちが湧き上がってきました。そんな思いを抱えて事務局に御連絡させていただき、今回の絵馬奉納式典への出席が叶ったわけです。

笠置さんが広島駅まで迎えに来て下さいました。事前に、

「12時に広島駅北口の普通送迎車駐り場。さて、これだけで無事会えるかどうか。ここから先は

ゲームとしましょう。互いに見つけ合えるかどうか。できるだけ携帯は使わないで。」
との御連絡をいただきましたが…全く心配要りませんでした。

笠置さん、木内さんをはじめ、OBの方々、現役の学生さん達、そして・・・細野神社境内の、あの懐かしい青草の匂いに温かく迎えられ、気温37℃という夏真っ盛りの中でも、とても心安らぐ気持ちになりました。厳しい夏の暑さ、冬の寒さ、日々の練習、草刈り、藁集め…細い道を行き交うトラックやダンプカーに驚き嘶く馬達、それを抑えるのにひと苦労したこと、等々…苦しいことも沢山経験した場所なのに、やはり私にとっては温かい場所でした。この地が、そしてここでいただいた地域の方々からの数々の助けが、長い長い馬術部の歴史を支えているのでしょう。そして、今の自分自身をも…。

除幕され、その立派な姿を現わした絵馬。厳粛な式典の最中も、いろいろな思い出が心をよぎります。当時、地元の女性からこんなお声をかけていただいたことも思い出しました。

「ここら辺は、夜は街灯もなく本当に寂しいところでね。私がまだ学生の頃、知らない人に追いかけられたことがあって。怖くて恐ろしくて、この厩舎までは…と、必死に自転車こいで逃げただけど、ちょうどほら、ここ。私、突き倒されて、厩舎の前の溝に落ちてしまって。助けてー！って叫んだら、厩舎から学生さんが飛び出してきてくれて。私はそのおかげで助かった。知らない人を追い払ってくれた。もうずいぶん前のことだけどね。だから私、ここの厩舎に足を向けては眠れない…。」

男子部員の方が常時泊まり込んで馬を守ってくれていましたが、こうして逆に、地域の方から頼りにされていた部分もあったのですね。そうした先輩方の行動ひとつひとつの積み重ねもまた、この地での馬術部の活動が理解され、存続していく原動力につながっていたのでしょう・・・そんなことも改めて考えながら、祝詞に耳を傾けていました。

ありがとうございます。地域の皆様。そして、先輩方、現役学生の方々。帰って来て本当に良かったです。夜の西条での懇親会にも参加させていただき、この日私が得たかけがえのない思いに浸りつつ、東広島駅からのんびりと、新幹線「こだま」で、家族の元に戻りました。

自分の心の拠りどころがまたひとつ、できたような気がいたします。この絆を胸に、これからの日々をまた歩んでいきます。

またの日を！！

(大阪府高槻市)

太田川馬場跡地を訪れて

村田 圭太郎 (H15 年卒部)

私が入部した1999年に現在の西条の厩舎が使われ始め、太田川の厩舎の場所へは行くのも初めてだった。

顧問の新谷さんを広島駅へ迎えに行き、車の中で当時のお話を伺いながら細野神社へ向かう。車で細野神社へ向かう道中、近所のお店でいつもツケで食べ物を買っていたこと、大雨のたびに障害が流されてしまったことなど、お話を伺っている内に現地に到着した。

馬場の跡地は夏草が茂りどこまでが馬場だったのか今はわからなかったが、敷地の幅は20メートルあるかないか位で練習はかなり工夫をされていたのではないかと思う。

その後、細野神社へ移動して奉納式に参加。式には色々な世代の方が来られていて、厩舎が長い間親しまれ部に貢献してきたかが伝わってきた。

奉納式が終わり、帰り際にもう一度馬場があったという場所に目を向けて見た。今は草が茂るばかりのこの馬場から何人もの先輩方が汗を流してこられ、今の西条の厩舎に繋がっていると強く感じる1日だった。

人と人とを結ぶもの

西尾 夏央里 (H25 年卒部)

私がOGとなってから半年以上が経ちました。今のところ、馬術部に身近なOGとして参加出来るイベントにはできる限り顔を出すようにしています。部員の時とは違った立場に戸惑うこともあります。様々な人との交流を今では楽しんでおります。

そんな今まで参加したイベントのうちの1つが、8月に行われた絵馬奉納式です。この絵馬の絵を描いたのは私の同期ということもあって、とても感慨深かったです。彼女とは1年しか活動を共にしていないのですが、馬術部での1年はとても濃かったためか今でもぼつぼつと連絡を取っています。また清祀会ホームページで私のことを知って、名前まで覚えて下さっていた方も奉納式にいらっしやっていて、大変驚きそして嬉しく思いました。遠くの人とでもつながりができるという点で、インターネットは偉大です。

馬術部に在籍している、そして在籍していた、ただそれだけで様々なつながりが維持され、またつながりが増えていくという現象を絵馬奉納式で体験した今、部員たちにも多くのつながりを作っていってほしいと思っています。

先輩方、本当にありがとうございました！

さて、ここからは部活動の雑感や、田中コーチ送別会の感想など、諸々の記事を掲載させていただきます！

雑感

部長 小櫃 剛人

昨年、今年と、多くの新入生が加入し、活気ある部活動を展開していることと思います。私は今年、十数年ぶりに、学部新入生のチューターを担当することになりました。教養ゼミなどで1年生と接する中で、十数年前の学生との違いをいくつか感じています。コミュニケーションでは、Eメールでの連絡が多くなりました。緊急の連絡もわりとたやすくとれるようになりました。教養ゼミでの課題でも、即座にインターネットで調べたり、インターネットを利用した授業にもすぐに対応できるようです。グループ討論などでも、前回の頃に比べて、積極的な感じがしています。女子学生の方がどちらかというと積極的です。一方で、前期の最初には、授業でのレポートの書き方がわからないというような質問をうけたりしました。経験したことのないことに対しては、少し苦手なのかもしれません。

学生諸君に対応している自分自身も、十数年前に比べて変わった感じがしています。ふたまわりほど離れている年の差のせいかもしれません。あまり熱くなれず、すこし距離をおいて醒めた視線からみている感じがしています。学生諸君の主体性に委ねてみようという気持ちが以前より大きくなっているのだと思います。しかし、学生からの個々の相談に対しては、これまでの経験を生かして、親身に応えようと思っています。

チューターと学生の出会いが偶然であるように、人生の中での出会いはほとんどが偶然のものです。その中で、師となる方との出会いがあったり、生涯の友や伴侶との出会いがあったりするものです。馬術部での出会いも偶然かもしれませんが、将来を左右することは間違いないことと思います。素晴らしい学生生活をおくられることを祈ります。

馬術で一番大切な事

コーチ 田部 眞一郎

昨年9月初旬に蒜山で開催の馬術大会に参加していた時、会場で恩師の荒木雄豪先生の訃報連絡を馬術部の先輩から受けました。荒木先生は、馬の技術は人から習うものではなく、見て盗むものだというスタンスの方で、私は荒木先生から馬術を習っていません。しかし、亡くなる3年前にご自宅を訪問した際に「田部、馬術で一番大切なものは何だ！！」と、カッと目を見開いて問い詰められた事があります。しどろもどろであれこれ答える私に仰った事は、「馬術で一番大切

なことは、馬を蹴る事だ！！」でした。

荒木先生の「馬を蹴る事」の意味には、文字どおり馬の腹を蹴ると言う事はありますが、常に最大の推進を馬に要求する事、要求できる技術を会得する事が大切だと仰りたいのだと私は理解します。

中学2年生の頃から馬に接し始め、16歳の高校2年から広大馬術部の練習に参加するようになってから間もなく馬歴は40年です。まさに馬齢を重ねてきたのですが、馬術の奥は深く、未だ片目開眼とも思っていない。さらに55歳の今年、馬で初めて大きな体の故障を経験しましたので体力に自信は無くなりました。しかし、馬術に係わり続ける限り「蹴る(推進する)」と言う事に、自分自身も、学生の指導でも拘り続けて行きたいと思うところです。

「可部厩舎の思い出」

コーチ 三笠 史登 (H8年卒部)

多くの皆さんがご存知のように、正確には可部ではなく安佐南区八木町に厩舎はありました。けれどこれまた多くの人は、愛情込めてこの場所を“可部厩舎”と呼びます。

平成4年度入学の私は、移転までの約2年間この厩舎にお世話になりました。可部厩舎にまつわる思い出を、少し書き出してみようと思います。

▽犬 … 4匹の番犬がいました。キノ、シロ、ペス、プス？いやプー太郎？それぞれお気に入りの場所に陣取っていました。

▽猫 … いつのまにか居ついた猫。エースと名付けられました。マジックでお腹に落書きされたこともあったような。

▽宿直 … 夜飼い・朝飼いをやるため、男子部員が泊まり込みをしていました。時には複数で泊まって酒を飲み、テレビゲームをし、ボーイズトークに花を咲かせました。

▽暴走族 … 厩舎前を、特攻服姿のあんちゃんたちが走り抜けることもしばしば。「電話を貸してください」と礼儀正しく訪ねて来たこともあったそうです。

▽馬房 … 壁板を間引いて風通しを良くした夏馬房、隙間をすべてふさいだ冬馬房。木造の馬房は、季節に合わせて部員たちの手で姿を変えました。

▽ボロ捨て … 厩舎裏にボロ山を作り、定期的に近所の農家へとトラックで運びました。

▽馬運車 … ある時は馬運車、ある時はボロ捨てトラック、またある時はオガ運搬車。ホロをつけたり外したりしながら、大活躍してくれました。

▽宴会 … 鍋パーティー、カレーパーティー、事あるごとに厩舎に集っては、わいわい賑やかにやりました。

まだまだ書き足りませんがこれくらいで。あらためて思うのは、練習以外の多くの時間を仲間

たちと過ごした、貴重な空間だったということ。青春、というやつです。

ひと区切り

コーチ 田中 智久 (H13 年卒部)

現役学生の頑張りはもちろん、OB・OGの方々や関係者の皆様のおかげで今年も夏季中国四国学生馬術大会で総合優勝することができました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

私が担当させていただいています「清将」は、昨年の夏、怪我により出場できませんでしたが、今年の1月から復帰し、試合に間に合わせる事が出来ました。そして、2年生の住田が90cmのクラスに出場し、減点0で入賞しました。最後に一つ成果を出すことができ、ホッと胸を撫で下ろしました。

皆様にこの部誌が届く頃には、私は広島を離れ、姫路市へ活動の場を移しています。家業を継ぐことになり、平成10年に途中入部して15年とちょっと通いつけた馬術部から卒業させていただくことになりました。

広島大学馬術部でお世話になり、可愛がっていただいた皆様、支えてくれた仲間や私の指導に頑張っついてきてくれた後輩達に、重ねて御礼申し上げます。皆様のおかげで、現役時代には入賞して成績を残すことができ、その後コーチとして携わらせていただいたから後輩達が頑張ってくれたおかげで中国四国地区をトップで走り続けることが出来ています。

こんなに長い間、馬に関わっていられたのは、「楽しい」と思っていたからだと思います。きつい練習後、自身と馬のレベルアップを感じるのが「楽しい」。成果を試合毎に感じる事ができるのが「楽しい」。部活後、仲間たちと時間を共有することが「楽しい」。後輩達の技術の進歩、社会人見習いとして成長していく姿を見るのが「楽しい」、などなど。全てにおいて「楽しい」と感じていたからこそここまで続けることが出来たと考えています。

これから、全日本学生馬術大会に臨む学生や、来年の春季中国四国学生馬術大会を次の目標にする学生達には、練習や部活を大いに楽しんでいただきたいと思います。

お久しぶりです

越智 康博 (H17 年卒部)

先日は、田中コーチ送別会兼夏季中四国大会祝勝会にお招きいただきありがとうございました。私はとても久しぶりに広大馬術部に来たのですが、思い起こしてみると平成18年1月の笠置さんの還暦お祝い会以来でした。長く顔を出していなかったので、行く前には不安な気持ちが大き

かったのですが、OB・OGの方々はちゃんと私のことを覚えていてくれて、現役部員の皆さんも温かく迎えてくれました。多くの人と色々な話ができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。

翌日には馬場で馬に乗せていただきました。私が現役だった頃よりも部員の数が増え、良い練習ができているなあと感じました。聞くところによると某人気漫画の影響でどこも馬術部員が増えているとか。喜ばしいことです。私も微力ながら協力できればと思います。

私の方はというと、卒業してから変わらず北海道のノーザンファームで働いております。西条はまだまだ暑かったですが、こちらは朝は12.3℃、昼は20℃程で丁度過ごしやすい時期となりました。この時期は一歳馬の騎乗馴致を行っております。馬にとっては初めてのことを教えているので危険なこともあります。笠置さんに教えられた「人が怪我をしないように」を忘れず仕事に励んでいます。もし北海道にお越しの際にはご連絡ください。私もこれからは馬術部の方にちよくちよくお邪魔しようと思います。

卒部依頼、あまり馬術部に行かれていないOB・OGの方々、是非いらしてください。コーチや部員たちはいつでも大歓迎ですよ。時間は無いのではなく作るものです！！（会社の上司によく言われます。）

広島大学馬術部の皆様へ

常山 鉄平（H17年卒部）

このたびは、夏季中四国大会の制覇おめでとうございませう。広島を離れてしまうと、なかなか顔も出せず、お役に立てずすみません。

木内監督をはじめ、指導者の皆様にはお仕事お忙しい中、貴重な土日を割いてのご指導、本当にお疲れ様です。

学生の皆様も、練習の成果を発揮し、優勝できたことはうれしいことだと思います。この成果に満足することなく、これからも新たな目標を自分で設定し、それに向かい、さらなる練習をされることを期待しております。

田中コーチ、平成12年度から13年間のご指導お疲れ様でした。入部当初から、田中コーチの華々しいご活躍に少しでも近付きたいと思い、4年間頑張ってきたのが懐かしいです。田中コーチ下乗りの馬で試合に出ることは少なかったですが、日々の練習や、また、その試合の映像で見る騎乗スタイル、調教法は、とても勉強になりました。また、部活後の時間なども楽しく、充実した学生生活でした。兵庫に戻られても、お元気で頑張ってください。

自分（たち）だけではないということ

コーチ 岩本 彩（H23 年卒部）

現在、広島大学馬術部の部員数は19名です。私が現役の頃を考えると、信じられない人数です。部員数の増加は誰もが望んでいたことですが、なかなか実現しない夢でした。また、中四では何度も総合優勝をし、全日本への権利獲得も今や夢ではなく、現実の目標になりました。近年、広島大学馬術部は、上り調子で、着実に前進しています。

笠置総監督は馬の調教の際、いつもこのようにおっしゃります・・・「良い日もあれば、悪い日もある。しかし、年々、良くなる。これが大切。一気に良くしようとしてはいけない、積み上げてきたものがあるから、だんだん良くなる。」と。もちろん、長い時間をかけても正しい方向（方法）でなければ、良くなるものではありません。

このことは、部の運営においても同じだと思いました。着実に諸先輩方が積み上げて来られたものがあるからこそ、今の広島大学馬術部があるのだと。広島大学馬術部創部56年間で、良い時期も悪い時期もあり、今後もそのような大小の波は続くでしょう。しかし、それは当然のことです。「だんだん良くなる。これが大切。だから、楽しい。」

全日本での入賞も夢ではなく、現実となるその日を目指して、コーチとして、いちOGとして、いつまでも進化する広島大学馬術部と関わって行きたいと思います。今日まで、広島大学馬術部の歴史を積み上げてきてくださった、OB、OG、現役部員の皆様、私に素敵な機会を与えてくださり、ありがとうございます。明日からもよろしく願いいたします。皆で、積上げて行きましょう！！



田中コーチと若手メンバーで。皆さん、厩舎に遊びに来てください！

多くのご投稿をいただき、ありがとうございました。

最後に、絵馬奉納に添えて景政終身顧問よりいただいた文章を掲載いたします。

絵馬雑記

終身顧問 景政 崇彦 (S36年卒部)

神寺に奉納する絵を額とし、祈願・報謝の意を示すためのものである。元は馬とか木馬をあてたものであったが、後に馬以外のものもあり画材は変わった。中には江戸時代「和算」が盛んとなり、質問を額にして上梓し、誰人難問を示すと、何時か、その答を何人が額にして奉納したという話がある。さらに、今は昔の今昔、乗りし馬を売って我がために浮画を作れたるとき、云々、馬を売ってまで絵馬として納めた大物の話は又愉快である。

今回の絵馬は、馬術部に相応しい日本一。

次に、絵額を枠ける金具の意匠は普通扇形とか朝顔型でありあまり変わったものはない。現品は、清虎号蹄鉄一双を用いる（平成24年4月10日脱手）。更にタンニン塗装を備してある。

さて、「馬蹄」というある文献が想起される。答は「莊子そうじ」中国古典「三部構成、全33編、内編（7編）、外編（15編）、雑編（11編）」にあり。内容は至って簡単「馬はあるがままの姿にするのが良い…」と。実は、誰人にも言わなかったが、人呼んで再生牧場と云って下さったのは、畜産学徒としての実験でした。馬術は伯楽の技と伝えると未読の輩は一読あれ！

そこで清虎君の鉄馬蹄は、世間の人々生きる「道」を説く「馬蹄」なりの意を注入することで、世界に一つしかありません。

参考文献 絵馬について 日本の米 富山和子著 中公新書 148頁

莊子（そうじ）馬蹄について 新釈漢文大系 莊子下 明治書院 320頁

馬蹄第9（漢文有り）昭和42年発行 市川・安藤著

世界一わかりやすい「老莊思想」 長尾剛著（大変意識的）PHP文庫 105頁

編集後記

この度は、短時間での原稿募集にも関わらず、多くの素敵なお投稿・ご感想をいただき誠にありがとうございました。最初にも申しましたが、つくづく馬術部にとって大切なのは人間関係であるということを感じさせられています。絵馬式典も送別会兼祝勝会も、馬術部という思い出の場所に皆様が集まってくださって初めて成功させることができたことです。特に遠方の皆様にとっては『行こうかな、どうしよう…』という迷いもあったかと思いますが、意を決してご参集いただいたことへの感謝の気持ちを私達は一生忘れません。この西条において私のできることは微々たるものですが、これからも皆様が集まりたいと思える馬術部を、いつまでも続けていけるよう努力したいと思います。

会員の皆様、今後とも馬術部のことをどうぞよろしく願いいたします。ご精読いただき、本当にありがとうございました。

広島大学体育会馬術部 監督 木内 啓司

